

令和6年度第3回 伊那市総合教育会議会議録

- ◎招集年月日 令和6年12月25日(水)
◎開催日時 令和6年12月25日(水) 午後1時30分～午後3時02分
◎場 所 伊那市役所 庁議室
◎出席者 市長、副市長
福與教育長、北原教育長職務代理者、田畑委員、黒河内委員、宮坂委員
◎欠席者 なし
◎出席職員 三澤教育次長、唐澤学校教育課長、北林子ども相談室長、早川市誌編さん室長、
小松指導主事、酒井指導主事、伊藤教育総務係長

1 開 会

教育次長

ただいまから令和6年度第3回総合教育会議を開会いたします。はじめに市長からご挨拶をお願いします。

2 市長あいさつ

市長

暮れが近づき、冬らしい天気になってまいりましたが、雪がないのは何よりかなと感じております。今日は、大変お忙しい中、年末の中ではありますが、第3回総合教育会議にご出席いただきましてありがとうございます。今年もあと1週間あまりということで寒い日が続いておりますけれども、コロナがまだ流行っていたり、インフルエンザが猛威を振ったりしています。いろいろ心配なところがありますが体調には十分ご留意をされて、穏やかな新年を迎えられることを期待しています。

今日の総合教育会議は、伊那市誌編さんのデジタル化への対応と小中学校の学力向上についてご意見をいただくということです。市誌については、令和7年度末にまずは4巻の発刊を目指して作業を進めていますが、デジタル化への対応は、この時代どうしても必要であるという考えであります。市誌へのアクセスや検索機能の向上、貴重な文化財もデジタルで活用できるなど、歴史や文化の保存と普及に大変重要なステップになると考えています。先日の池上秀畝展でも皆さんがまだ見てないような作品がたくさんありますが、デジタル化されれば秀畝の描いた鳥や動物の絵、そうしたものにも触れることができます。デジタル化は非常に重視しています。

もう一つの小中学校の学力向上については、学校教育における根幹となるものであり、それぞれの学年に応じた学力をしっかりと身につけていただく、これが重要であり、自己肯定感またコミュニケーション能力の向上、問題解決能力といったことに繋がっていくところですので、この学力向上についてもしっかりとご議論をお願い申し上げまして、挨拶といたします。

教育次長

ありがとうございました。続いて教育長からご挨拶をお願いします。

教育長

学校では終業式を終えて、全ての学校が2学期を終えました。市長からもお話があったとおり、学校にもインフルエンザが蔓延にしており、学級閉鎖で終業式に参加できない学級もいくつかあります。何とか休み明けには元気に出てきてくれれば良いなと思っています。

本日は伊那市誌の編さん、小中学生の学力向上ということです。市誌は来年度刊行予定の4冊

も初稿が入稿されている状況になってきています。また、学力向上は、子どもに近い現場が直面し、あるいは感じている課題について市長とともに考えることができる機会として大変大事であると感じているところでございます。

本日はよろしく願いいたします。

教育次長

ありがとうございました。それでは協議事項に入りたいと思います。ここからは市長の進行でお願いします。

4 協議テーマ

(1) 伊那市誌のデジタル化について

市長

令和の時代に市誌を作るということがなかなか他の自治体では手をつけられない中で、非常に注目されているのは事実です。市誌をつくる意義、この時代の市誌とはどういうものなのかといったことも注目されています。市誌の編さん状況についてお聞きいただいて、またご意見をいただければと思います。

市誌編さん委員会

市誌編さん室長、春日委員長、年表部会 畑委員から説明

市長

市誌編さんのデジタル化ということで状況について説明がありました。ご質問あれば出していただければと思います。

今聞きながら思い出したのですが、長谷に宇津木というところがあり、もう集落がなくなっているところですが薬師堂があります。今から6年から7年ぐらい前ですが、33年に1回のご開帳があり、今回最後という話があったので、職員に準備から何から全部細かくデータを取っておくよう言っております。これは約300年の歴史の最後のお祭りになる可能性もあります。そんなこともありましたので、念頭に置いていただければと思います。

春日委員長

承りました。ありがとうございます。

教育長職務代理者

市長の言われた地域の行事等ですが、例を申し上げますと、庚申塔の建立が1980年でしたので、これからあと16年くらい後に来ます。私の近くでも本当に大きな石碑をずっと引き回した映像が当時の白黒の動画で残っています。鮮明でないのですが、当時の中心だった方たちは次には90歳、100歳となり伝えることが十分できてないかと思うので、こういうものを残して引き継ぐことは、各地域にもまだあるかなと思います。

デジタルアーカイブ化については、たくさんあると複雑になってしまいます。例えば、市報でも点々とありますが、テーマ別にアーカイブ化のように繋げていくと大事な筋が出てくると思います。

もう一つ、高遠町時代に「高遠の四季」というB3版の本当に綺麗な画像のものが、60回ぐらい出されており、非常に貴重な資料だと思います。伊那や長谷にもあるのか、参考になるのかどうかということについても検討の余地があるかどうかと思います。

市誌編さん室長

社会編で、コロナに関する部分のまとめをする中で、コロナについて令和2年のあたりから市報でどのように扱ったのかということ拾い上げる作業を進めています。会社関係、飲食店関係、学校関係、または地区関係で、どのように対応されてきたか、何が大変だったか、こういうふうに対応した、こういうことが良くなったけれども、逆にこういうことが悪くなった、いろいろなことがあると思いますが、アンケート形式で原稿を寄せていただくようお願いしています。

また、「高遠の四季」や合併前の市町村の中でもそれぞれまとめたものがあります。高遠では「高遠十景」、伊那市では「いいとこ百選」があり、良い所として紹介している資料等も今と比較すると違いがわかる、そういった作業をしています。

春日委員長

伊那市報に使っている写真は事務局の方で集めて、目録化しています。

教育委員

デジタルアーカイブへのアクセスのしやすさについての質問です。国立国会図書館にもあり、信州デジタルコモンズもあり、伊那市のアーカイブもつくるといことです。国会図書館の資料は、ホームページで検索しても見られないですね。

畑委員

国会図書館の資料はIDを取れば見られます。信州デジタルコモンズはIDがなくても見られます。伊那市の場合はIDなしで見られるようになると思います。

教育委員

既刊の伊那市誌、高遠町誌、長谷村誌の電子版に、現在編さん中の市誌のデジタル化は販売方法と合わせて検討する、とありますが、どういう意味ですか。

畑委員

電子ブックとなりますが、本屋さんにある本の中身そのままです。もし同時に発売となると紙版はいらぬという人が出てきます。販売時期をずらした方がいいのか、同時にした方がいいのか、また紙版を選ぶかデジタル版を選ぶか等の検討が必要となります。

教育委員

もちろん紙版の方がかなり高いのでしょうけれども、デジタル版の方は先ほどのお話だと無料で検索できるということですか。

畑委員

検索できるのは地域資料であり、これそのものではありません。部分的には検索できるもので、全体を読むことができる、全部を載せるかどうかというのはこれからの検討です。全てが発刊される11年に、全部の分冊が発刊した後に、時間をおいて全てのデジタル版を出すのはありだと思います。いずれデジタル版はあって良いと思います。無料か有料か、全部誰でも見られる状況かどうか、私のところでは判断しかねるところですが、やっぱり販売してある程度の収入を見込んでの伊那市誌の発刊、販売だと思います。

教育委員

要望ですが、これだけ価値のあるもので、様々な使い道があり可能性を秘めているので、出来

しだい、インターネットで見られるようにしていただく、そうすると紙版が売れなくなってしまうのですが、売れなくても良いように思いますが、駄目ですか。

春日委員長

販売の責任者ではありませんが、私ども市誌編さん委員会では「この市誌編さん事業は紙版で行きましょう」として承っており、その上でデジタル化の方向を持ちましょう、ということの基本線に置いております。まずは紙版を編集しましょう、そこに追随してデジタル化がある見解のもとにやっています。まずは紙版を作り上げて刊行する、その上で紙版は売れなくても良いからデジタル化を進めろと発破をかけられるかどうかはこれからの状況だと思います。

教育長

デジタル化はとても大事だと思っていて、令和7年度末に刊行する市誌の中に、先ほどお話あった資料や、取り上げられなかった資料をリンクして、2次元コード化してというように進むと考えているのですが、そのことと、令和11年になってのプレオープンっていうのと、若干そこにタイムラグが出てきます。

令和7年度末に刊行するものについては、プレオープン前にそういうアーカイブのデータが閲覧できるような状況にしていくことが前提であるのか、市誌の中に2次元コードなりを掲載して、やがて見られるようにしていく構想なのか、如何ですか。

春日委員長

非常に難しい質問ですが、編さん委員と事務局の人数では、質問がありましたように、紙版が刊行されると同時にデジタルの要素を持ったものが同時進行でというのは、まず無理だろうと思います。発刊後にインデックスも含めてデジタル化していくということです。現在は、紙版をつくるために執筆に時間を費やしている、そのために残りの調査をしているというのが現状です。そこを同時並行でというところまでは仕事量として不可能かなと思います。

市長

春日委員長さんがおっしゃったように、今のマンパワーでギリギリに動かしてもらっています。初期の目標どおりのものをまずやってもらうことが最優先だと思います。

教育委員

個人的に感じていることですが、公民館で例えばしめ縄を作れる人がどんどん少なくなってきていて、地域ならではの形や作り方があると思いますが、現存の作れる人がいる間に作る側に立っての動画があると良いと思います。生活に密着したものはそんなに数は多くないと思います。最低限のもので、例えば「振りマンド」のマンドの作り方など、生活風習の中で技術伝承できずに絶えてしまいそうなものを選んでもらえると良いと思います。

春日委員長

しめ縄は、実は民俗編で候補に上がっていません。私も先日直売所で買いましたが、このしめ縄飾りは90歳のおじいさんが作っているということでした。項目になっていませんので、民俗編の担当に伝えたいと思います。

畑委員

私がこのデジタルアーカイブを担当しているのも、令和11年度の最後に発刊される予定の年表の担当だからという意味もあります。保管されているものの中から選ばせていただいて、整えて

いく。令和 10 年、11 年度を待たずにコンテンツは集めていきます。ただ、どういう形にするか、どこにアーカイブの URL を置くかはっきり定まらないと、暫定的にアップしても住所の変更届を出し続けることになるので、できるだけ早くこの住所をどこに定めるか令和 11 年度を待たずに決めていただいて、そこにデジタル化したものを集めていきたいと思っています。

随時収集したいので、市民の皆様にもこれから呼びかけて、そういう貴重な資料が白黒のものでも持っているという人がいれば一刻もブルーレイなどにした上で、いずれ伊那市デジタルアーカイブにという段取りを取りたいと思っていますので、ご協力をお願いしたいと思います。

市長

時間の関係で以上とさせていただきます。ありがとうございました。

5 閉会

教育次長

ありがとうございました。以上で、第 3 回総合教育会議を終わります。